

# 中小企業動向調査

この調査は富山県内企業402社を対象に実施し、265社より回答があり、その結果をまとめたものである。

企業の調査資料として、平成27年1月～3月の実績、平成27年4月～6月の見込み、平成27年7月～9月の先行き見通しを集約した概要である。なお、季節調整は行っていない。

調査時期：平成27年3月下旬

	調査対象企業数	有効回答企業数	有効回答率
製 造 業	164	112	68.3%
非 製 造 業	238	153	64.3%
計	402	265	65.9%

日銀が6月11日に公表した、北陸の金融経済月報（2015年6月）によると、「北陸の景気は、回復している。

最終需要をみると、個人消費は持ち直している。設備投資は一段と増加しており、住宅投資は持ち直しつつある。公共投資は減少傾向にある。

当地製造業の生産は高水準で推移している。業種別にみると、化学、電子部品・デバイスは高水準で推移している。はん用・生産用・業務用機械は横ばい圏内で推移している。繊維は弱含んでいる。金属製品は減少している。

雇用・所得環境は着実に改善している。

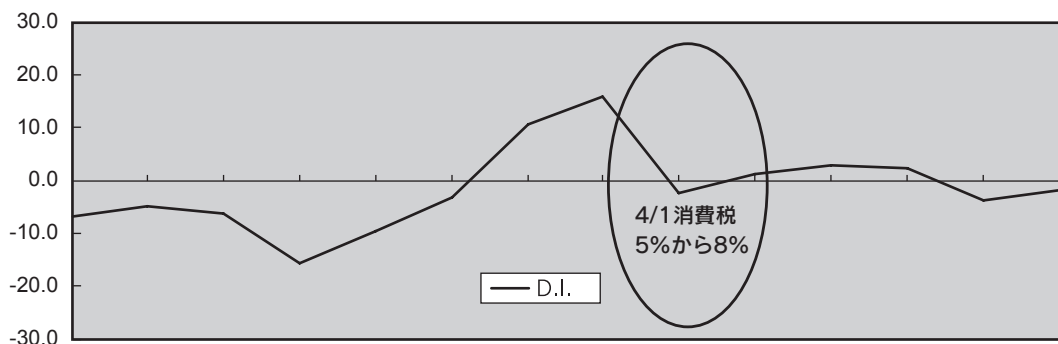
先行きについては、回復を続けていくとみられる。」としている。

## I. 企業概況

企業概況の推移……（全産業）

(%) 見込 予測

期別 種別	24 年			25 年			26 年			27 年				
	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月
良 い	14.3	14.7	15.7	10.4	14.2	13.7	24.3	26.7	15.5	17.5	17.0	19.4	9.9	9.6
普 通	64.6	65.8	62.5	63.7	62.2	69.6	62.0	62.6	66.5	66.1	68.9	63.5	76.3	78.9
悪 い	21.1	19.5	21.8	25.9	23.6	16.7	13.8	10.7	17.9	16.3	14.1	17.1	13.7	11.5
D . I .	-6.8	-4.8	-6.1	-15.5	-9.4	-3.1	10.5	16.0	-2.4	1.2	2.9	2.3	-3.8	-1.9

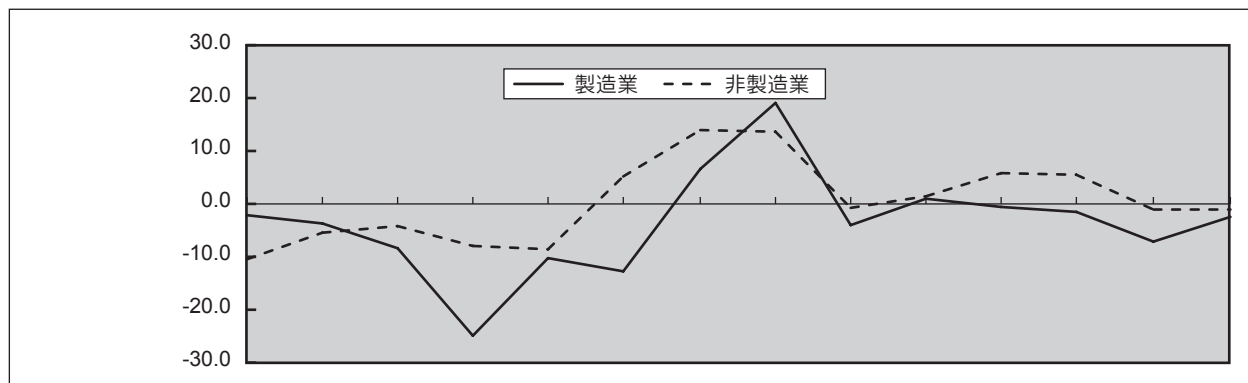


企業概況の推移……（うち製造業のみ）

		（%）												見込	予測		
種別	期別	24 年			25 年			26 年				27 年					
		4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月		
良	い	16.2	15.3	13.6	6.2	16.8	10.5	21.6	28.9	17.6	19.4	15.3	18.8	8.1	8.1		
普	通	65.4	65.6	64.4	62.8	56.0	66.2	63.2	61.2	60.5	62.0	68.5	60.7	76.6	81.1		
悪	い	18.5	19.1	22.0	31.0	27.2	23.3	15.2	9.9	21.8	18.5	16.2	20.5	15.3	10.8		
D . I .		-2.3	-3.8	-8.5	-24.8	-10.4	-12.8	6.4	19.0	-4.2	0.9	-0.9	-1.8	-7.2	-2.7		

企業概況の推移……（うち非製造業のみ）

		（%）												見込	予測		
種別	期別	24 年			25 年			26 年				27 年					
		4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月		
良	い	12.8	14.3	17.5	13.7	12.0	16.3	26.5	24.8	13.6	16.1	18.2	19.9	11.3	10.7		
普	通	64.0	65.8	60.8	64.4	67.3	72.5	60.9	63.8	72.0	69.1	69.2	65.6	76.2	77.3		
悪	い	23.2	19.9	21.7	21.9	20.7	11.3	12.6	11.3	14.4	14.8	12.6	14.6	12.6	12.0		
D . I .		-10.4	-5.6	-4.2	-8.2	-8.7	5.0	13.9	13.5	-0.8	1.3	5.7	5.3	-1.3	-1.3		



(1) 富山県内の中小企業の業況を全産業で見ると、業況判断指数D.I.「良い－悪い」の27年1～3月期実績は2.3と前期比0.6ポイント悪化した。

先行きについて、27年4～6月期のD.I.は▲3.8、27年7～9月期のD.I.は▲1.9と悪化する予想となっている。

前回調査では、27年1～3月期は、マイナスポイントまで悪化予想となっていたが、ポイントは若干の悪化はあったものの、「良い」が多い回答であった。

(2) 業況判断指数D.I.の27年1～3月期を製造業と非製造業に分けてみると、製造業は前期より0.9ポイント悪化、非製造業は前期より0.4ポイント悪化となり、非製造業ではプラスポイントと「良い」との回答が多くなっている。

先行きについては、製造業、非製造業とも悪化を予想している。

## II. 売上高状況

売上高状況

(%) 見込 予測

種別 \ 期別	24 年			25 年			26 年			27 年				
	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月
増加	33.5	26.3	28.4	22.3	30.6	32.3	43.1	53.0	29.9	31.4	30.0	28.3	18.9	22.8
横ばい	40.3	46.4	44.7	45.2	42.1	45.9	39.9	33.2	43.4	43.3	43.1	41.5	61.7	61.4
減少	26.3	27.3	26.9	32.6	27.4	21.7	17.5	13.8	26.7	25.3	27.0	30.2	19.3	15.9
D. I.	7.2	-1.0	1.5	-10.3	3.2	10.5	28.6	39.3	3.2	6.1	2.9	-1.9	-0.4	6.8

売上高状況（うち製造業のみ）

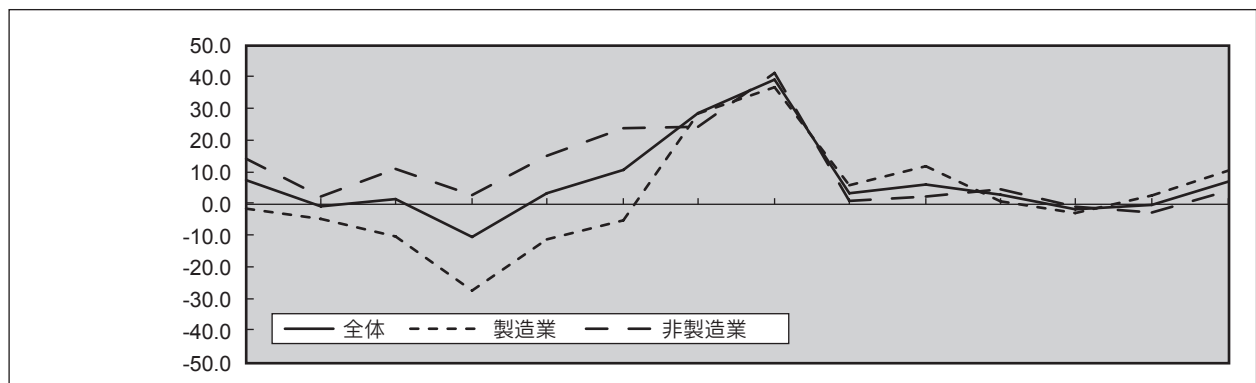
(%) 見込 予測

種別 \ 期別	24 年			25 年			26 年			27 年				
	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月
増加	28.0	24.4	24.5	12.3	22.8	25.3	46.0	53.3	32.2	35.2	29.2	31.3	23.2	25.9
横ばい	42.6	46.6	40.7	48.2	43.3	44.0	36.5	30.3	41.5	41.7	42.5	34.8	56.3	58.9
減少	29.4	29.0	34.8	39.5	33.8	30.6	17.5	16.4	26.3	23.1	28.3	34.0	20.6	15.2
D. I.	-1.6	-4.6	-10.2	-27.2	-11.0	-5.2	28.6	36.9	5.9	12.0	0.9	-2.7	2.7	10.7

売上高状況（うち非製造業のみ）

(%) 見込 予測

種別 \ 期別	24 年			25 年			26 年			27 年				
	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月
増加	37.8	27.8	31.5	30.0	37.1	38.2	40.8	52.9	27.8	28.7	30.5	26.2	15.8	20.4
横ばい	38.4	46.3	47.9	42.9	41.1	47.5	42.8	35.7	45.1	44.4	43.5	46.4	65.8	63.2
減少	23.8	25.9	20.6	27.2	21.8	14.4	16.4	11.4	27.1	26.8	26.1	27.4	18.4	16.4
D. I.	14.0	1.9	11.0	2.7	15.2	23.8	24.3	41.4	0.8	2.0	4.3	-1.3	-2.6	3.9



- (1) 売上高は、前年同期比較での増減について回答を受けている項目である。今回調査では、D.I.は、▲1.9となり、前期より4.8ポイント悪化の回答となった。  
先行きについては、27年4～6月期のD.I.は、まだマイナスポイントであるが、改善していく予想となっている。
- (2) 売上高状況D.I.を製造業と非製造業に分けても、どちらも改善している。  
先行きについて、製造業・非製造業とも1～3月期は悪化するが4～6月には改善を予想している。

### Ⅲ. 生産高・稼働率状況

生産高状況（製造業のみ）

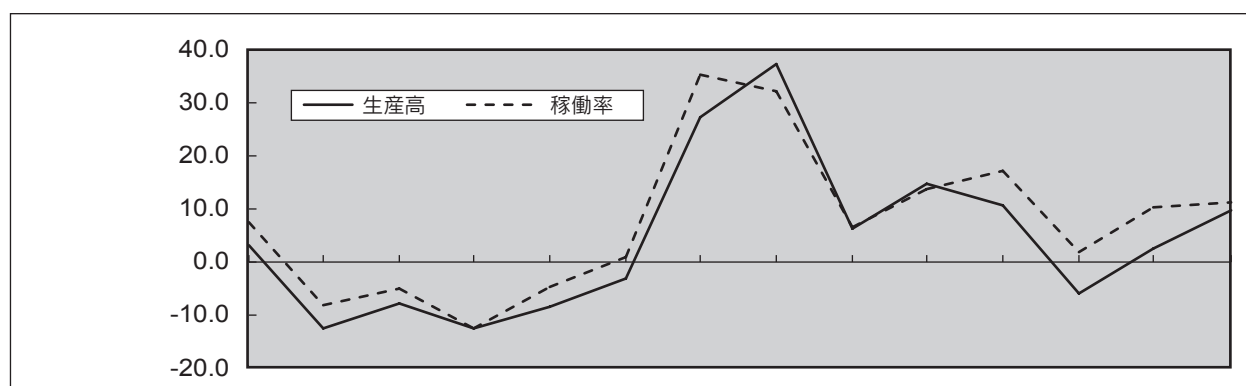
(%) 見込 予測

期別 種別	24 年			25 年			26 年			27 年				
	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月
20%以上増加	5.6	4.7	5.1	0.9	5.5	3.9	7.4	13.6	3.5	5.7	1.8	4.2	1.7	2.6
20%未満増加	25.0	17.2	20.5	19.6	17.2	19.5	33.1	38.1	27.8	27.9	29.2	24.6	22.6	21.1
横ばい状況	41.9	43.8	41.0	46.4	46.1	50.0	46.3	33.9	43.5	47.5	48.7	36.4	53.9	62.3
20%未満減少	22.6	28.1	29.1	24.1	21.9	24.2	11.6	13.6	23.5	17.2	17.7	28.0	19.1	11.4
20%以上減少	4.8	6.3	4.3	8.9	9.4	2.3	1.7	0.8	1.7	1.6	2.7	6.8	2.6	2.6
D . I .	3.2	-12.5	-7.7	-12.5	-8.6	-3.1	27.3	37.3	6.1	14.8	10.6	-5.9	2.6	9.6

稼働率（製造業のみ）

(%) 見込 予測

期別 種別	24 年			25 年			26 年			27 年				
	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月
上昇	4.9	5.7	6.1	0.9	4.7	4.0	8.6	12.9	3.6	5.1	3.8	3.6	1.9	2.8
やや上昇	25.2	13.9	10.2	17.9	16.5	20.0	33.6	33.6	25.0	26.5	29.2	25.2	25.2	21.5
横ばい	47.2	52.5	42.1	50.0	52.8	52.8	50.9	38.8	49.1	50.4	50.9	44.1	56.1	62.6
やや下降	19.5	22.1	27.2	23.2	15.7	20.0	5.2	14.7	20.5	17.1	13.2	21.6	15.9	11.2
下降	3.3	5.7	4.4	8.0	10.2	3.2	1.7	0.0	1.8	0.9	2.8	5.4	0.9	1.9
D . I .	7.3	-8.2	-5.3	-12.5	-4.7	0.8	35.3	31.9	6.3	13.7	17.0	1.8	10.3	11.2



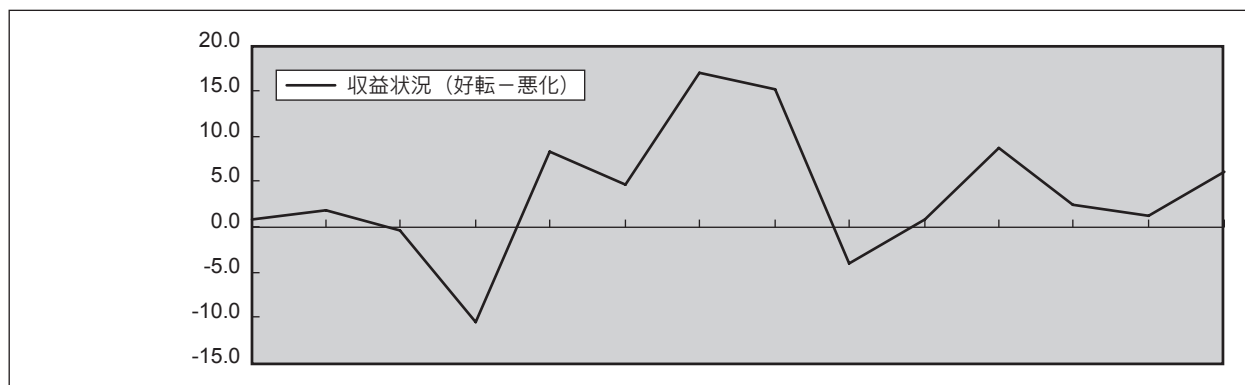
- 生産高・稼働率ともに売上高と同様、前年同期比での増減について回答を受けている項目である。製造業の生産高状況D.I.は▲5.9となり、前期比16.5ポイント悪化した。先行きについては、売上高と同様に、改善予想となっている。
- 稼働率についても、今回調査では、前期より悪化したとの回答であった。先行きについては、売上高、生産高同様に今期比改善予想となっている。

## IV. 収益状況

収益状況（好転－悪化）

(%) 見込 予測

期別 種別	24 年			25 年			26 年			27 年				
	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月
好 転	19.5	19.7	20.8	15.8	25.2	19.3	28.5	29.9	14.6	20.8	23.8	23.2	16.0	16.0
横 ば い	61.6	62.2	58.1	57.9	57.9	66.1	60.1	55.3	66.8	59.2	61.0	55.9	69.2	74.1
悪 化	18.9	18.0	21.1	26.3	16.9	14.6	11.4	14.8	18.6	20.0	15.2	20.9	14.8	9.9
D . I .	0.7	1.7	-0.4	-10.5	8.3	4.7	17.1	15.2	-4.0	0.8	8.7	2.3	1.1	6.1



好転理由

(%) 見込 予測

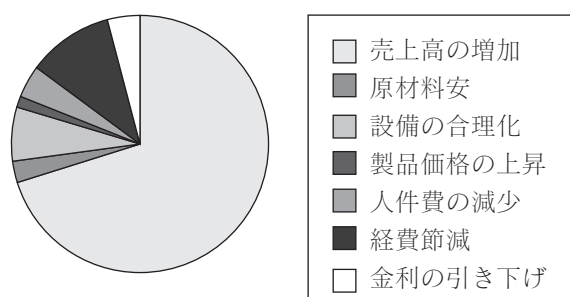
期別 種別	24 年			25 年			26 年			27 年				
	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月
売上高の増加	67.6	64.4	70.8	61.8	64.5	72.5	82.1	83.0	68.6	74.0	69.8	70.3	68.6	68.8
原材料安	9.9	4.1	4.6	1.8	4.3	0.0	1.1	0.0	3.9	1.3	4.7	2.7	3.9	2.1
設備の合理化	0.0	1.4	3.1	1.8	3.2	4.3	3.2	2.3	5.9	3.9	5.8	6.8	7.8	10.4
製品価格の上昇	2.8	2.7	3.1	5.5	4.3	5.8	2.1	0.0	9.8	9.1	4.7	1.4	5.9	10.4
人件費の減少	2.8	6.8	0.0	7.3	4.3	4.3	4.2	2.3	2.0	2.6	4.7	4.1	3.9	0.0
経費節減	16.9	19.2	16.9	18.2	18.3	13.0	7.4	11.4	5.9	9.1	9.3	10.8	7.8	6.3
金利の引き下げ	0.0	1.4	1.5	3.6	1.1	0.0	0.0	1.1	3.9	0.0	1.2	4.1	2.0	2.1

悪化理由

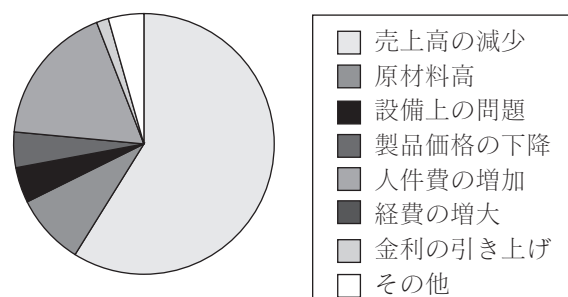
(%) 見込 予測

期別 種別	24 年			25 年			26 年			27 年				
	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月
売上高の減少	59.2	56.8	51.3	66.3	62.5	48.4	53.5	55.4	51.4	51.4	52.5	58.8	63.8	58.8
原材料高	17.1	13.5	10.3	10.8	12.5	19.4	20.9	10.7	18.6	24.3	16.9	8.8	6.4	11.8
設備上の問題	0.0	1.4	3.8	1.2	0.0	6.5	0.0	0.0	1.4	1.4	3.4	4.4	0.0	2.9
製品価格の下降	6.6	14.9	11.5	4.8	7.8	4.8	7.0	8.9	5.7	4.3	8.5	4.4	4.3	2.9
経費の増大	5.3	9.5	12.8	9.6	9.4	6.5	14.0	14.3	11.4	11.4	5.1	17.6	17.0	17.6
人件費の増加	6.6	2.7	2.6	2.4	3.1	8.1	0.0	3.6	8.6	4.3	6.8	0.0	4.3	2.9
金利の引き上げ	0.0	1.4	0.0	0.0	1.6	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	1.5	2.1	0.0
その他	5.3	0.0	7.7	4.8	3.1	4.8	4.7	7.1	2.9	2.9	5.1	4.4	2.1	2.9

好転理由



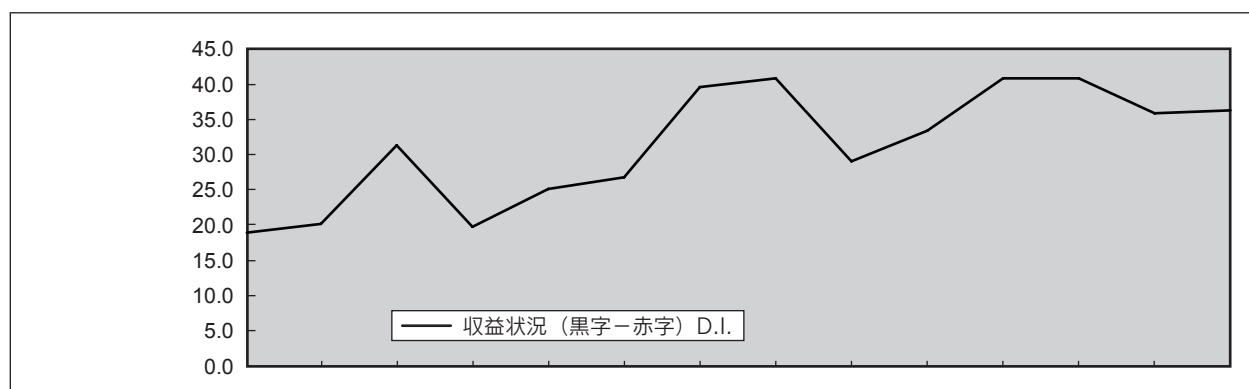
悪化理由



- (1) 収益状況「好転－悪化」D.I.は、前期比6.4ポイント悪化し、2.3となった。  
 先行きの4～6月期は更に悪化見込みとなっているが、7～9月期には改善を予想している。
- (2) 今期収益が好転した理由は、「売上高の増加」が70.3%で最も多くなっている。  
 次に、「経費節減」が10.8%となった。  
 前回調査時より、「設備の合理化」「経費節減」を理由ポイントが増加したが、「原材料安」「製品価格の上昇」とするポイントは減少した。
- (3) 収益が悪化した理由では、「売上高の減少」とするポイントが58.8%と最も高いポイントとなった。  
 前回調査時に比べ、「経費の増大」を理由とするポイントが増加している。しかし、「原材料高」「人件費の増加」とするポイントは減少となった。

収益状況（黒字－償却後赤字）

種別	期別														
	24年			25年			26年			27年			見込		予測
	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	(%)
黒字	41.0	39.1	46.7	39.0	44.3	42.5	53.8	53.5	45.1	49.4	52.8	52.7	47.2	46.9	
収支トントン	36.9	41.9	37.7	41.7	36.3	41.8	31.8	33.7	38.6	34.5	35.1	35.2	41.3	42.5	
償却後赤字	22.1	19.0	15.6	19.3	19.4	15.8	14.4	12.8	16.3	16.1	12.1	12.1	11.4	10.6	
D.I.	19.0	20.1	31.1	19.7	24.9	26.7	39.4	40.7	28.9	33.3	40.8	40.6	35.8	36.2	



- (4) 収益状況「黒字－償却後赤字」D.I.は40.6となり、前期比ほぼ横ばいとなった。  
 収益状況は、「黒字」との回答が多く、安定推移となってきている。  
 先行きについても、ポイントはやや悪化するものの、プラスポイントと「黒字」との回答が多くなっている。

## V. 製品在庫水準

製品在庫水準

(%) 見込 予測

期別 種別	24 年			25 年			26 年			27 年				
	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月
不足	3.9	2.5	2.9	0.9	3.6	5.2	4.6	3.2	2.9	4.4	1.5	2.6	1.0	1.0
適正	89.3	91.5	92.3	91.5	88.8	91.3	89.9	90.3	91.3	89.2	91.3	89.7	94.3	93.8
過剰	6.9	5.9	4.8	7.5	7.6	3.6	5.5	6.5	5.8	6.4	7.3	7.7	4.7	5.2
D . I .	-3.0	-3.4	-1.9	-6.6	-4.0	1.6	-0.9	-3.2	-2.9	-2.0	-5.8	-5.2	-3.6	-4.1

製品在庫水準 (うち製造業のみ)

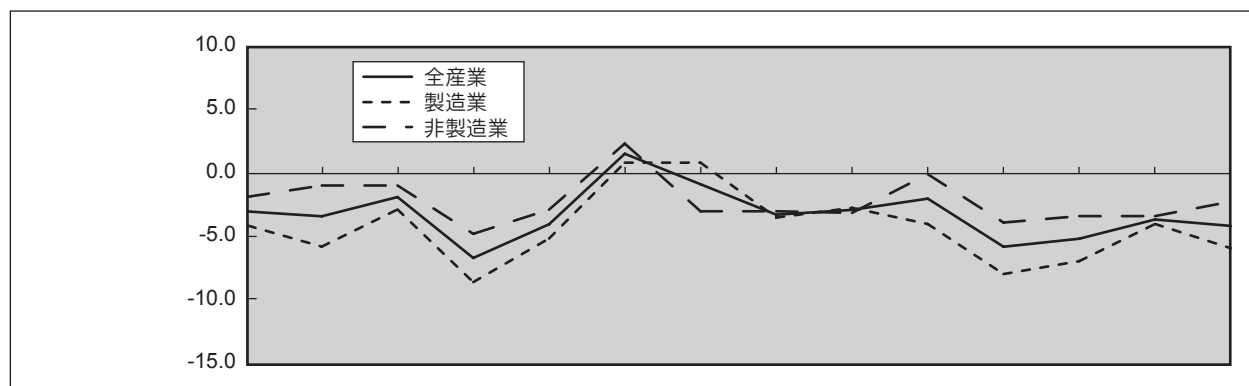
(%) 見込 予測

期別 種別	24 年			25 年			26 年			27 年				
	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月
不足	2.5	1.6	2.8	1.9	5.1	6.3	5.2	3.5	4.5	5.0	2.0	3.9	0.0	0.0
適正	91.0	91.0	91.7	87.7	84.7	88.3	90.4	89.4	88.4	86.0	88.2	85.3	96.0	94.1
過剰	6.6	7.4	5.5	10.4	10.2	5.5	4.3	7.1	7.1	9.0	9.8	10.8	4.0	5.9
D . I .	-4.1	-5.7	-2.8	-8.5	-5.1	0.8	0.9	-3.5	-2.7	-4.0	-7.8	-6.9	-4.0	-5.9

製品在庫水準 (うち非製造業のみ)

(%) 見込 予測

期別 種別	24 年			25 年			26 年			27 年				
	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月
不足	5.4	3.5	3.0	0.0	1.9	4.0	3.9	2.9	1.0	3.9	1.0	1.1	2.2	2.2
適正	87.4	92.1	93.0	95.3	93.4	94.4	89.2	91.3	94.8	92.2	94.2	94.6	92.3	93.5
過剰	7.2	4.4	4.0	4.7	4.7	1.6	6.9	5.8	4.2	3.9	4.8	4.3	5.5	4.3
D . I .	-1.8	-0.9	-1.0	-4.7	-2.8	2.4	-2.9	-2.9	-3.1	0.0	-3.8	-3.3	-3.3	-2.2



- (1) 全産業の製品在庫水準「不足－過剰」D.I.は、27年1～3月期は▲5.2となり、前期比0.6ポイント改善となった。在庫は過剰との回答となっており、先行きもやや改善予想であるが、まだ、過剰との回答が多い。
- (2) 業種別では、製造業のD.I.は▲6.9となり、前期比0.9ポイント改善となった。非製造業は▲3.3と0.5ポイント改善した。先行きについては、どの業種も過剰とのポイントが高いが、改善予想となっている。

## VI. 設備投資動向

設備投資の有無

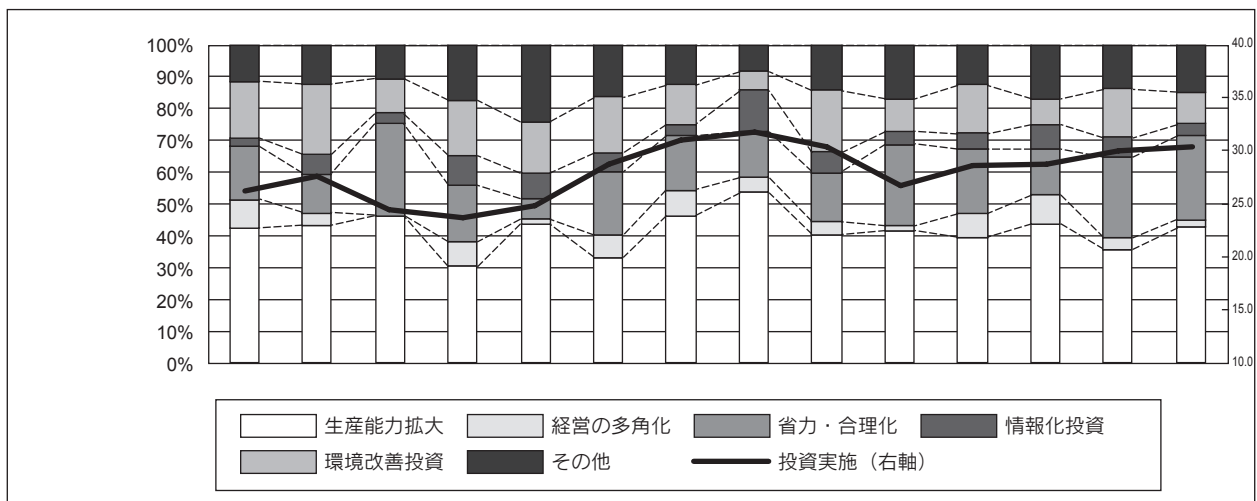
(%) 見込 予測

期別 種別	24年			25年			26年			27年				
	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月
投資実施	26.2	27.6	24.4	23.7	24.7	28.7	31.0	30.3	31.8	26.7	28.5	28.7	30.0	30.4
投資せず	73.8	72.4	75.6	76.3	75.3	71.3	69.0	69.7	68.2	73.3	71.5	71.3	70.0	69.6

設備投資の目的（実施先について）

(%)

生産能力拡大	42.3	43.2	46.2	30.2	39.1	32.9	46.0	40.3	53.6	41.4	39.2	43.4	35.4	42.5
経営の多角化	9.0	3.7	0.0	7.9	1.4	7.1	8.0	3.9	4.8	1.4	7.6	9.2	3.8	2.5
省力・合理化	16.7	12.3	29.2	17.5	5.9	20.0	17.2	15.6	14.3	25.7	20.3	14.5	25.3	26.3
情報化投資	2.6	6.2	3.1	9.5	7.2	5.9	3.4	6.5	13.1	4.3	5.1	7.9	6.3	3.8
環境改善投資	17.9	22.2	10.8	17.5	14.5	17.6	12.6	19.5	6.0	10.0	15.2	7.9	15.2	10.0
その他	11.5	12.3	10.8	17.5	21.7	16.5	12.6	14.3	8.3	17.1	12.7	17.1	13.9	15.0



(1) 今回調査では、設備投資を実施した企業は全回答先の28.7%と、前回調査時のほぼ同じポイントであった。先行きについては、やや増加の予想となっている。

設備投資の目的別では、「生産能力拡大」とするポイントが最も高く、次に「省力合理化」であり、前回調査時と変わらないが、「省力合理化」のポイントが減少している。

また、「環境改善投資」とするポイントも減少となった。

(2) 業種別で、ポイントの高いのは、製造業では「プラスチック製造」「医薬品製造」であり、50%以上となった。

非製造業では、「宿泊業」「その他サービス業」が高いポイントであった。

先行きについても、「プラスチック製造業」「窯業土石」が設備投資を行うポイントが高い。

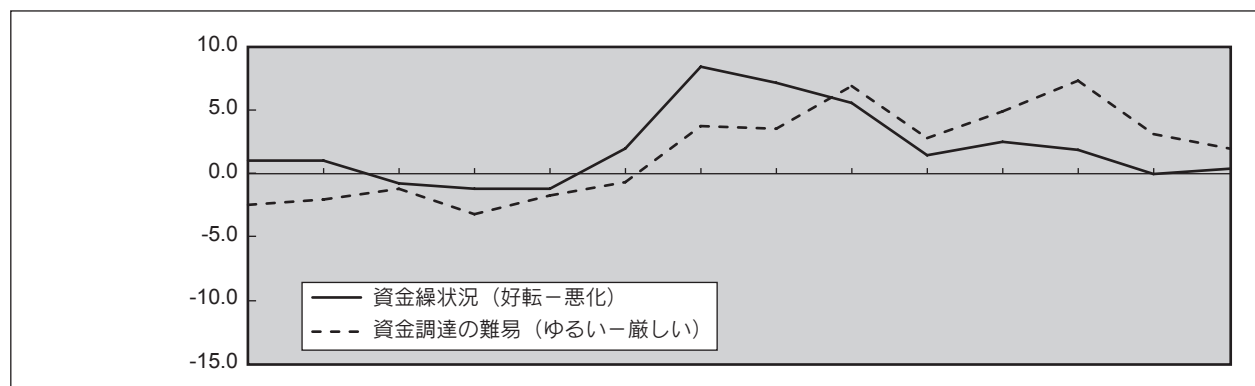


## VII. 資金繰り状況

資金繰り状況（好転－悪化）

(%) 見込 予測

期別 種別	24年			25年			26年			27年				
	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月
好転	11.8	10.9	9.5	8.6	10.1	8.8	13.9	14.1	10.4	10.0	7.9	9.5	7.5	8.3
変わらず	77.4	79.3	80.3	81.6	78.8	84.4	80.8	79.1	84.9	81.6	86.6	83.0	84.9	83.8
悪化	10.8	9.9	10.2	9.8	11.2	6.8	5.3	6.8	4.8	8.4	5.4	7.6	7.5	7.9
D . I .	1.0	1.0	-0.8	-1.1	-1.1	2.0	8.5	7.2	5.6	1.5	2.5	1.9	0.0	0.4



資金調達の難易（ゆるい－厳しい）

(%) 見込 予測

期別 種別	24年			25年			26年			27年				
	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月
ゆるい	12.3	10.8	11.3	11.7	11.4	11.1	14.8	14.3	14.6	11.2	13.1	13.6	11.2	10.5
厳しくない	73.0	76.3	76.3	73.4	75.3	77.1	74.2	74.8	77.7	80.3	78.7	80.2	80.6	81.0
厳しい	14.7	12.9	12.5	14.8	13.3	11.8	11.1	10.9	7.7	8.4	8.2	6.2	8.1	8.5
D . I .	-2.5	-2.1	-1.2	-3.1	-1.8	-0.7	3.7	3.5	6.9	2.8	4.9	7.4	3.1	1.9

(1) 資金繰り状況D.I.「好転－悪化」実績は前期比0.6ポイント悪化となった。

資金繰り状況のポイントは、10～12月期ではやや改善していたが、今回調査では、再び悪化となった。先行きについても、悪化予想となっている。

(2) 資金調達の難易D.I.は、7.4となり、前期比改善となった。

今期は前期比改善のしたが、先行きは、悪化予想であり厳しい予想となっている。

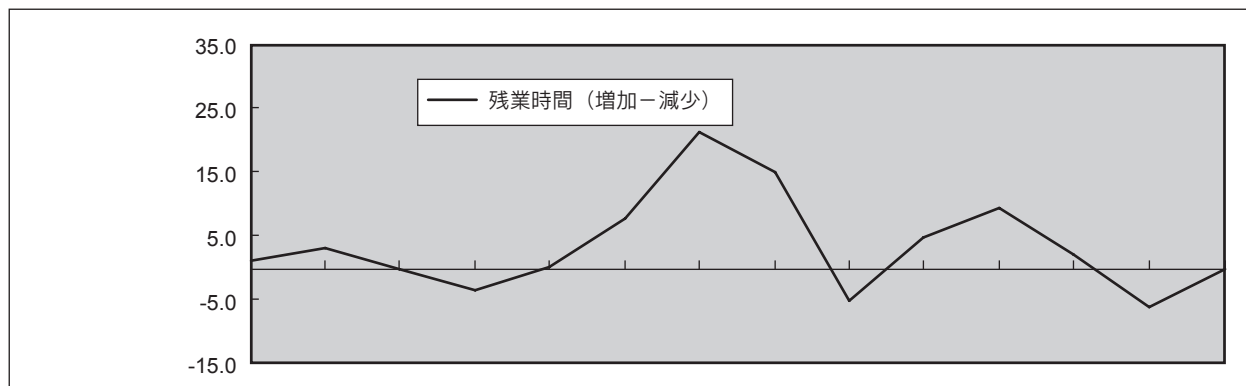
業種別では、製造業の「繊維」「医薬品製造」が厳しいとのポイントが高く、非製造業では、「宿泊業」「卸売業」「百貨店・スーパー小売」のポイントが高くなっている。

## VIII. 労務事情

残業時間

(%) 見込 予測

期別 種別	24年			25年			26年			27年				
	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月
増加	12.7	13.3	12.7	12.0	13.3	15.4	26.3	23.6	8.8	13.1	17.5	13.9	7.1	8.8
横ばい	75.4	76.0	73.7	71.8	73.0	76.6	68.6	67.5	76.8	78.1	74.1	73.9	79.5	81.5
減少	11.9	10.6	13.6	16.2	13.7	8.1	5.1	8.9	14.5	8.9	8.4	12.2	13.4	9.7
D.I.	0.8	2.7	-0.8	-4.1	-0.4	7.3	21.2	14.6	-5.7	4.2	9.1	1.7	-6.3	-0.8

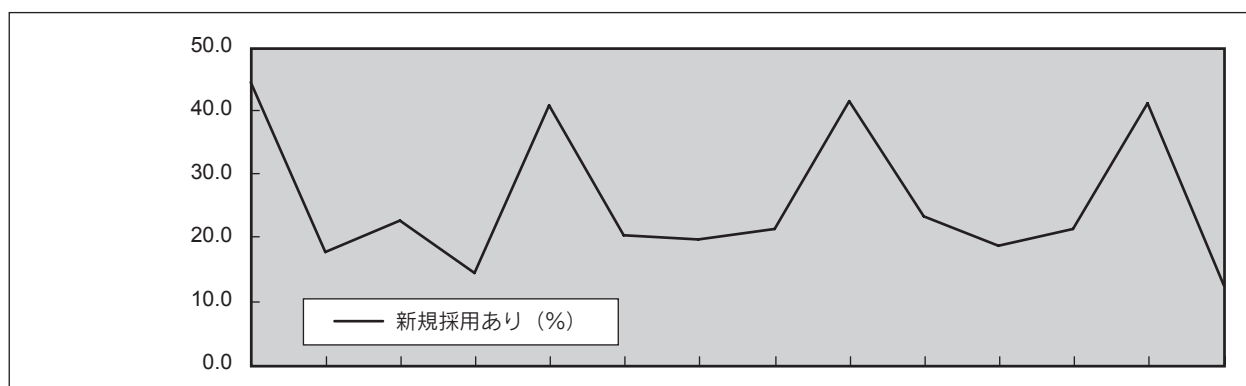


- (1) 残業時間D.I.は27年1～3月期1.7となり、前期比7.1ポイント悪化した。残業時間は、年末に向け増加したが、年初より減少となってきている。先行きについても、減少予想となっている。

新規採用実績(採用あり：%) ※常用・臨時合算

(%) 見込 予測

期別 種別	24年			25年			26年			27年				
	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月
全産業	44.6	17.7	22.6	14.3	40.9	20.3	19.6	21.2	41.5	23.4	18.5	21.2	41.1	12.8
(うち製造業)	48.9	17.6	16.1	13.6	40.2	20.0	18.1	23.8	45.5	25.9	23.7	20.7	51.8	8.9
(うち非製造業)	41.3	17.8	27.9	14.9	41.4	20.5	20.9	19.0	37.9	21.6	14.8	21.6	33.3	15.7

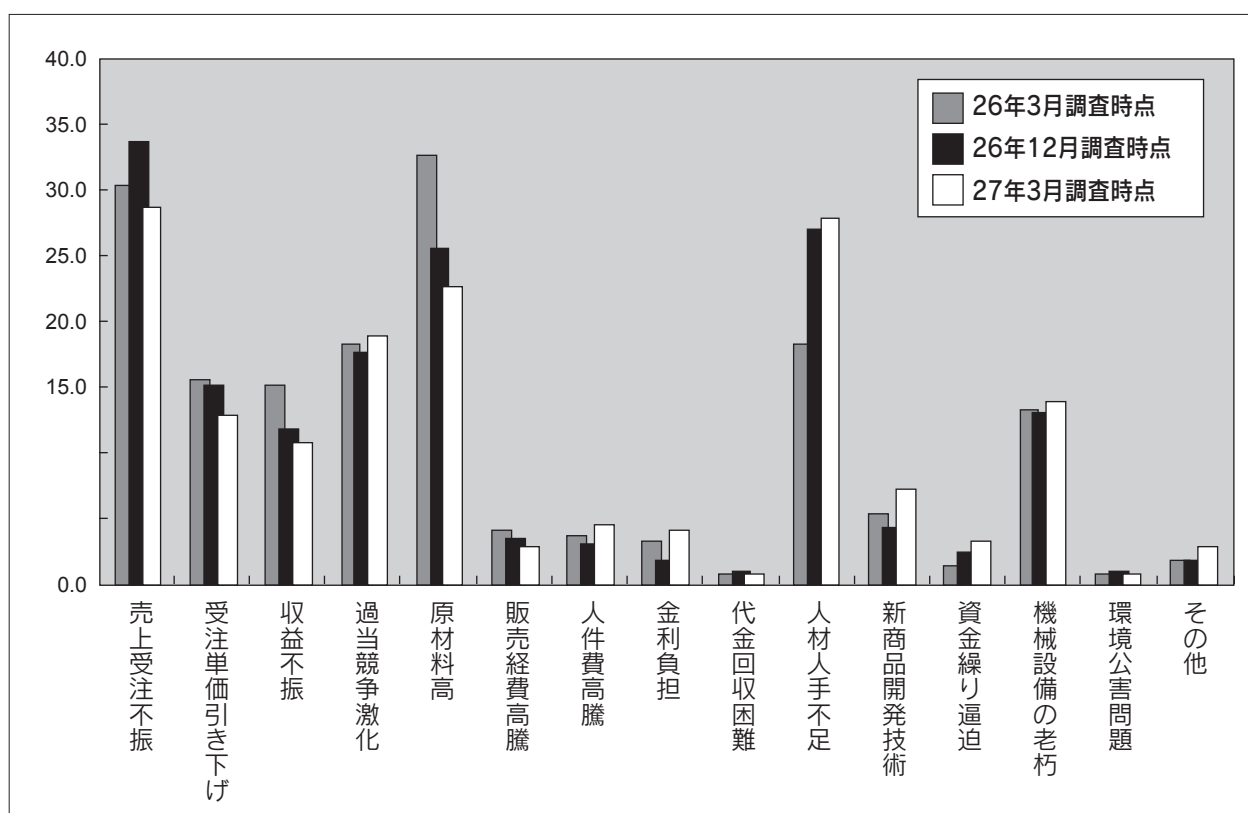


- (2) 新規採用集計は、常用雇用・臨時雇用合算で集計している。集計を見ると、前年同期に比べ、増加している。業種別では、製造業は減少するが、非製造業は増加となった。先行きについては、採用ポイントは前年同期比やや減少となっているが、4～6月には41.4%が採用を予定している。

## IX. 当面の経営上の問題点

(%：複数回答あり)

	26年3月 (前年同期)	26年12月 (前回)	27年3月 (今回)	前回比増減		
				(うち製造業)	(うち非製造業)	
売上受注不振	30.3	33.6	28.7	(28.6)	(28.8)	-4.9
受注単価引き下げ	15.5	15.2	12.8	(17.0)	(9.8)	-2.4
収益不振	15.2	11.9	10.9	(12.5)	(9.8)	-1.0
過当競争激化	18.2	17.7	18.9	(11.6)	(24.2)	1.2
原材料高	32.6	25.6	22.6	(26.8)	(19.6)	-3.0
販売経費高騰	4.2	3.6	3.0	(1.8)	(3.9)	-0.6
人件費高騰	3.8	3.2	4.5	(4.5)	(4.6)	1.3
金利負担	3.4	1.8	4.2	(6.3)	(2.6)	2.4
代金回収困難	0.8	1.1	0.8	(0.9)	(0.7)	-0.3
人材人手不足	18.2	27.1	27.9	(20.5)	(33.3)	0.8
新商品開発技術	5.3	4.3	7.2	(13.4)	(2.6)	2.9
資金繰り逼迫	1.5	2.5	3.4	(3.6)	(3.3)	0.9
機械設備の老朽	13.3	13.0	14.0	(16.1)	(12.4)	1.0
環境公害問題	0.8	1.1	0.8	(1.8)	(0.0)	-0.3
その他	1.9	1.8	3.0	(1.8)	(3.0)	1.2



- 今回の調査の全産業での当面の経営上の問題点をみると、①売上受注不振28.7%（前期比▲4.9ポイント）、②人材人手不足27.9%（前期比+0.8ポイント）③原材料高22.6%（前期比▲3.0ポイント）の順になっている。
- 今回調査では、売上受注不振を問題点とするポイントが最も高いが、「人材人手不足」も高いポイントとなってきた。
- 問題点の売上受注不振が高いポイントの業種は、「繊維」木材業となっている。「人材人手不足」は「出版印刷紙加工」「土木業」「建設業」「医療福祉」「その他サービス業」となっている。「新商品開発技術」が、前期比2.9ポイント増加し問題点として高くなってきている。

## X. 平成26年4月からの消費税引き上げの影響

		実績	見込	予測 (%)
項 目		27年1～3月	27年4～6月	27年7～9月
売 上 高	好 転	5.7	6.5	6.5
	悪 化	14.9	11.8	8.4
	影響なし	79.4	81.7	85.1
仕 入 高	好 転	3.5	2.3	3.1
	悪 化	17.2	14.8	12.1
	影響なし	79.3	82.9	84.8
営 業 利 益	好 転	5.8	5.0	5.0
	悪 化	17.7	15.0	11.5
	影響なし	76.5	80.0	83.5

- (1) 今回調査で、売上高へ影響があった企業は、回答企業の21.8%と前回と同じであった。回答企業のうち14.9%は悪化したとなっている。  
先行きについては、更に減少予想となっている。悪化とするポイントは減少予想である。
- (2) 仕入高への影響は、20.7%が影響ありと回答があった。  
うち、悪化との回答が17.2%であり、前回調査比1.2ポイント減少した。
- (3) 営業利益は、23.5%が影響ありと回答であり、うち17.7%が悪化したと回答があった。先行きについては、影響ありとのポイントは減少してきている。  
消費税引き上げの影響は、減少しており、先行きについては更に減少する予想となっている。

# 総 評

## I. 製造業

### (織 維)

今回の調査では、売上高状況は前期比改善となったが、業況、収益は悪化の回答となっている。先行きについては、改善予想となっているが、資金調達も厳しいとの回答であった。

### (医 薬 品)

今回の調査では、業況、売上高状況とも前期比悪化の回答であった。生産指数も減少傾向となっている。しかし、設備投資には依然積極的であり、今回も回答企業の50%以上が設備をおこなっている。

### (機 械 工 業)

機械工業の業況判断指数は、前期比改善となっている。生産指数も増加しており、良好な推移となっている。しかし、先行きは、やや悪化予想となっている。

国内設備の増加に伴い、業況は改善していくとみられる。

### (電 子 部 品)

業況判断指数と売上高状況指数は、26年1月をピークに悪化傾向となっており、今回も前期比は悪化の回答であった。先行きについても、悪化予想となっている。日銀の金融経済月報では、高水準の推移とあるが、当行調査では、反する回答となった。

### (プ ラ ス チ ッ ク)

業況判断指数は、前期比大幅改善となった。売上高については反対に前期比悪化となった。

内閣府の景気ウォッチャー調査では、「消費動向は着実に増加する。」との声もあり、先行きが期待される。

### (ア ル ミ 製 品)

当行調査では、業況判断指数、売上高状況については、悪化傾向となっている。業況については、今回やや改善したが、先行きは悪化予想となっている。富山県の新設住宅着工戸数は前期比改善してきており、金属制建具の需要増加が期待される。

### (木 材 業)

業況判断指数は、26年7～9月をピークに悪化となってきた。売上高状況も悪化してきており、問題点として、「売上受注不振」「原材料高」として多くあがっている。

### (木 工 ・ 建 具)

富山県内の木造住宅新設着工戸数は平成26年度は、前年度に比べ7.2%減少となっている。

しかし、今年の3月は前年比増加しており、先行きの住宅着工数の増加が期待される。

## II. 非製造業

### (土 木)

北陸新幹線工事の終了により、公共工事請負金額は減少している。東日本建設業保証(株)によると、平成26年度の公共工事請負額は前年度比9.4%減少となった。当行の調査では業況先は先行きについては、悪化予想であり、経営上の問題点では人材人手不足とする回答が高い。

### (建 築 業)

今回の調査では、業況判断は改善となったが、売上高状況は悪化している。富山県の平成26年の新設住宅着工戸数は、前年比13.9%減少となっている。消費税改正の反動と考えられるが、持家率も21%となっており、少子高齢化のなか人口は減少が予想され、今後検討が必要と思われる。

### (自動車販売)

富山県の27年1～3月の新車販売台数(軽自動車を除く)では前年同期比14.83%減少となった。軽自動車も、16.0%減少している。今年度4月からの税制改正への影響はあまりなかったようである。

### (運 送 業)

当行の調査では、経営上の問題点として「原材料高」、「人材人手不足」は依然高いポイントであり、なかなか改善できない状況となっている。業況判断指数、売上高状況は、前期比悪化となった。

### (宿 泊 業)

業況判断指数は前期比改善となっており、先行きも改善予想となっている。

3月の北陸新幹線開業に伴い、観光宿泊客は増加しており、先行きも期待される。

### (百貨店・スーパー・小売)

27年1～3月期の売上高は前年同期比減少となった。前年度の消費税引上げ前の駆け込み需要の影響が要因と思われる。しかし、先行きについては、売上高状況、業況判断指数は改善傾向にあり、個人消費の回復に期待している。

### (医療福祉関連)

経営上の問題点として、高い「人材人手不足」は、解消できず依然高いポイントとなっている。

4月以降には、新規雇用の予定であり、解消が期待される。